



2011年4月 第9巻第4号

かく語りき—聖人の言葉

「物質的なことに一切心を乱されない人は、
永遠不滅の命に達したのだ。」

(スワミー・ヴィヴェーカーナンダ)

「真我への希求を覆い隠す、物質への巨大な
欲望が、常に真我を思い起こすことにより打
ち消されるとき、真我は自ずと現れる。」

(アーディ・シャンカラチャーリヤ)

今月の目次

- ・ かく語りき—聖人の言葉
- ・ 今月の予定
- ・ 3月の逗子例会 シュリー・ラーマクリシュナ生誕祝賀会
- ・ ヨーガスクール・カイラス横浜校、シュリー・ラーマクリシュナ聖誕祭を開催
- ・ スワミー・メダサーナンダ、Ramakrishna Vedanta Society of the Philippines を訪問
- ・ Ramakrishna Vedanta Society of the Philippines にて
『瞑想の必要性と方法』スワミー・メダサーナンダによる講話

- ・ 今月の思想
- ・ 日本の地震災害の報告と救済基金について
- ・ 横浜の高校生が逗子の協会本部を訪問
- ・ 忘れられない物語

今月の予定

- ・ 生誕日・

ラーマ・ナヴァミ 4月12日(火)

- ・ 行事・

5月7日(土) 14:00~16:00 東京例会
講話：バガヴァッド・ギーター(無料)
場所：インド大使館 : 03-3262-2391
お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

5月15日(日) 10:30~16:30 逗子例会
場所：逗子本館
講話：『利己的と非利己的とどちらが得か』
スワミー・メダサーナンダ

5月22日(日) スワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕祝賀会
場所：インド大使館 * 詳細未定

3月の逗子例会

シュリー・ラーマクリシュナ生誕祝賀会

3月20日（日）、日本ヴェーダーンタ協会では、逗子例会で第176回シュリー・ラーマクリシュナ生誕祝賀会を行いました。

午前6時、マンガラ・アラティ、ヴェーダのマントラと賛歌詠唱、瞑想で祝賀会の1日が始まりました。早朝プログラムに参加された方々に朝食が振る舞われた後、作業リストに従って準備が進められ、10時半頃から信者の方々が集まり始めました。間もなく式事が開始され、スワミー・メダサーナンダが Sudeb Chatterjee 氏の介添えにより正式なプージャ、供物の奉獻、アラティを執り行いました。参加者の皆様には、マントラの詠唱、祭壇への献花（プシュパンジャリ）をいただきました。続いてホーマ（護摩）が焚かれ、最後に全員でマントラを唱えた後、スワミーが一人一人の額に小さな点のように聖灰を塗りつけました。

プーサードの昼食をいただいた後、2階の集会室に再び集まりました。スワミーは3月11日の震災について自身が感じていることを話し、被災地の市町村に対し直接募金・支援活動を行うことを提案しました。（詳細は本ニュースレターの後半をご覧ください。）最後に、犠牲者・被災者の方々へ黙禱・瞑想を捧げました。

ヨーガスクール・カイルス横浜校、シュリー・ラーマクリシュナ聖誕祭を開催

泉田香穂里（シャンティ）氏寄稿

3月6日、この日は正式なラーマクリシュナのお誕生日ですが、ヨーガスクール・カイルス横浜校でも「シュリー・ラーマクリシュナ聖誕祭」があるというので、協会からスワミーを含む7名が、初めて参加させていただきました。

このヨーガスクールは、主催者の松川慧照先生が、昔ドッキネッショル寺院で瞑想していた時に突然啓示があり、2003年から始められたそうです。以来ラーマクリシュナの聖誕祭も独自に行っていたので、今回スワミー他協会信者を招待していただく運びとなりました。

ヨーガスクール・カイルスは、スワミー・ヴィヴェーカーナンダが、日本からアメリカに出発した横浜港の近くにある、文字通りカイルス山のような高層ビルの15階にあります。教室の中は、部屋の装飾やお料理、出版物等どこを見ても、全て真心がこもった手作り感があって、とても深い愛に包まれたところでした。祭壇のお三方も協会と同じお写真で、お花や供物で綺麗に飾られていました。

今回の参加者は横浜校で40数名、大阪校にライブ中継もされていて、そちらで約16名、協会関係者を含めると総勢60名以上の参加者がいらっしゃいました。そしてなんといい表情の若者達が多い事！ またこちらでは、この聖誕祭のために、ラーマクリシュナが表紙になっているとても素敵なプログラムを作っておられ、中には沢山の賛歌やラーマクリシュ

ナの福音からの抜粋がわかりやすく印刷されていました。

12:00 プログラムの初めは AUM の三唱から始まり、次いで松川慧照先生によるラーマクリシュナについてのお話、そして協会でも馴染みのラーマクリシュナ・シャランなどの賛歌を2曲歌いました。その後、福音からの抜粋を各自で音読し、代表者が朗読、そしてカイルスオリジナル賛歌3曲を、とても素敵なピアノ伴奏で全員で歌いました。続いて、ヴェーダーンタ協会から私、シャンティも飛び入りでラーマクリシュナの賛歌を歌わせていただきました。カイルスの方々は歌うのがとても好きだそうで、全員が大きな声で心から歌っており、時折涙を見せるシーンもありました。これにはスワミーも協会の皆さんも大変感激し、ヴェーダーンタ協会でもこのように全員で歌える事を願っておりました。そして「三礼」という、花、線香、火のうち自分の好きなものを祭壇のラーマクリシュナに捧げる儀式を一人ずつ行い、その後ラーマクリシュナの瞑想をしました。

いよいよ、スワミーの『ラーマクリシュナのインパクトについて』の講話です。スワミーはとても静かなムードで話を始められました。

「シュリー・ラーマクリシュナの特徴は、いつも喜びに満ちている事です。なぜなら神様の特徴は絶対の至福だからです。ラーマクリシュナの教えはとても神聖で普遍的、調和的、現代的です。でも皆さんに霊性の話をする時

はとてもわかりやすく、身振り手振りでおもしろくお話をし、信者の皆さんをとっても笑わせました。でも次の瞬間、ラーマクリシュナは心を引き戻し、サマーディに入ります。皆さんがもしラーマクリシュナの事を深く勉強したいなら、まずラーマクリシュナを好きにならなければなりません。是非、『ラーマクリシュナの福音』と生涯を読んでください。そしてその教えを実践すれば、大きな成果が得られます。『ラーマクリシュナの福音』は、原語ベンガル語では『コタムリタ』といって、『甘露の言葉』『不滅の言葉』の意味です。もし私たちが甘露を飲めば（ラーマクリシュナのことを学べば）私たちは不死になります。ラーマクリシュナは遍在ですから、あらゆるところに存在しています。ですから、今日あなた方の歌を聴いて、話を聴いて、瞑想もしてお供えもいっぱいいただいて、とても喜んでいきます」と話されておりました。

私たちは、きっとラーマクリシュナが生きていらした時は、こんな風に信者達を笑いの渦に巻き込んでお話をしておられたのだと想像して聴いておりました。

そして最後に松川先生からのお話をいただき、ラーマクリシュナの賛歌とシャーンティマントラの歌を歌い、平安なムードで会は終了いたしました。

その後、祭壇にお食事を捧げ、皆さんでプ拉萨ードをいただきました。みち子さんの手料理、ソフィアさんの手料理、そして沢山のお菓子や果物などを楽しく語りながらいただ

きました。特にみち子さんの心のこもったお料理はとても美味しかったです。

本当にシュリー・ラーマクリシュナに祝福された素晴らしい時間でした。協会から参加させて頂いたメンバーもカイラスの皆さんも「生きたラーマクリシュナがここに居らっしゃる」と実感し、時折嬉しさと感動で涙ぐんでいました。

シュリー・ラーマクリシュナ（この日はスワミー・メダサーナンダジ）のお話を聴き、笑い、共に歌い喜びを分かち合う、とても祝福に満ちた1日でした。

沢山の祝福をくださったシュリー・ラーマクリシュナに感謝して。

スワミー・メダサーナンダ、Ramakrishna Vedanta Society of the Philippines を訪問

Enrico Colombo 氏（在マニラ）寄稿

スワミー・メダサーナンダは、2002年に初めてフィリピンを訪問されて以来、年に一度必ず来訪されています。2010年、Ramakrishna Vedanta Society of the Philippines（フィリピン・ラーマクリシュナ・ヴェーダーンタ・ソサエティ）の本部建物が落成しましたが、この年にスワミーはこのマニラ・センターを3回訪問されました。今回は2011年最初のご訪問であり、フィリピンの協会では、霊性の師であるスワミー・メダサーナンダにお忙しい中お越しいただくことを、皆、常々何よりも楽しみにしております。

スワミーはこれまでに何度もご来訪いただいているので、フィリピン人やインド人の信者・友人の方々と親しくなっておられます。スワミーのご来訪は、再会して講話を拝聴する喜ばしい機会であるだけでなく、霊的なことについて個人的にアドバイスをいただく貴重な機会でもあります。マニラに滞在されるのはほんの数日ですが、最近ではこのわずかな時間に様々な予定がぎっしりと組まれ、また突然新たに予定を入れていただくこともたびたびです。

毎朝6時30分に、詠唱、バガヴァッド・ギターの朗唱と解説、瞑想で一日の日課が始まりました。参加者の中で仕事へと急ぐ必要のない方には、朝食が振る舞われました。日中は、スワミーは個人的に面会の約束をした方と会って話をされました。

集会プログラムは夕方7時に始まり、バジャン、『ラーマクリシュナの福音』の朗読と解説、短時間の瞑想が行われました。夕食をいただいた後、『ホーリー・マザーの福音』を朗読してプログラムが終了しました。

マニラ滞在中、スワミーのお食事はすべて女性ボランティアの方々が心を込めて準備されました。ボランティアの方々にとっては、スワミーを始めとする参加者の皆さんのために料理をすることは貴重な恵まれた機会であり、皆さんその機会を大切にしていってほしいです。

3月11日（金）、日本を大地震と津波が襲っ

たというニュースに、スワミーは、大きな不幸に見舞われた日本の方々の側にいたいという思いから、マニラでの予定を中断してただちに日本に戻られようとなりました。が、日本へのフライトにはキャンセル等大きな混乱が生じていたため、すぐに帰国はできないことが分かりました。スワミーはマニラでのスケジュールをそのまま実施し、予定通り 3 月 14 日（月）の飛行機で東京へ戻られることにされました。

とりあえずは日本の逗子本部や何人かの信者の方々に連絡を取ろうと、スワミーは電話やメールをされていましたが、震災による停電等により固定電話・携帯電話ともなかなかつながりませんでした。震災直後の数日間、最も信頼性の高い通信手段が E メールであったのは興味深いことです。

日本の悲惨な状況を心配されながらも、スワミー・メダサーナンダは、週末に 2 つの重要な講話をされました。3 月 12 日（土）、地元の仏教団体を訪問された後、Theosophical Society of the Philippines のホールで 17 時から多数の参加者を前に『瞑想の始め方』というテーマでお話をされました。質疑応答の後、同 Society の会長や幹部の方々と夕食を共にされました。

3 月 13 日（日）には、Ramakrishna Vedanta Society of the Philippines で午後 5 時から『瞑想の必要性と方法』というテーマで講話をされました。軽食・休憩を挟んで、質疑応答、賛歌の後、午後 8 時過ぎにプログラムは終了

しました。参加者は約 40 名で、3 名のキリスト教修道女の方々がいらっしゃいました。

スワミーは、その後逗子協会や数名の信者の方々に連絡を取られた後、3 月 14 日（月）、日本航空の午後の便でマニラから成田へと戻られました。

Ramakrishna Vedanta Society of the Philippines にて

『瞑想の必要性と方法』

スワミー・メダサーナンダによる講話

2011 年 3 月 13 日（日）

第 1 部



スワミー・ニキラーナンダジは、近代インドの預言者であるシュリー・ラーマクリシュナの言行を記した『ラーマクリシュナの福音』をベンガル語から英語に翻訳された方で、New York Vedanta Center の会長も務めました。あるときアルベルト・アインシュタインに会いました。会話の中でアインシュタインが瞑想はとても重要であると言うと、ニキラーナンダジは働きもまた必要であると答えました。これに対しアインシュタインは、働きは私たちの本性の中にあるもので、言われなくとも私たちは働くが、瞑想はやる気にならないとしないものであると言いました。

今日のテーマは、『瞑想の必要性と方法』です。これは一人一人が自分事として考えなければ、論じても無駄に終わってしまうテーマです。興味はある、でも面倒くさいと思っていれば、誰も実行には移さないでしょう。なぜ瞑想が必要なのか。このことに興味があるのは、心の平安を得るのが難しい状況の中にいて平安を得たいと感じているからです。一方、瞑想には他の霊的要素、霊的目的もあります。それは、悟りを得ること、真理を知ること、神を悟ること、真我を悟ること、絶対の存在を悟ることです。

平安

心の平安はお金で買えるものではありません。もしお金で買えるのであれば、わざわざ時間を割いてこのような講話を聞きに来る人はいないでしょう。どんなにお金持ちでも心の平安を買うことはできないのです。平安を得ようと、皆、いろいろと試すものです。楽しいことをしたり、音楽を聴いたり、趣味、旅行に興じたり、恋愛や友情、名声を追い求めたり。しかしこれらのことで心の平安は得られません。そして遂には瞑想へと辿り着くのです。

瞑想とは一つの効果的なテクニックで、心のコントロールという方法で平安を得るものです。世界中で多くの人びとが大きなストレスにさらされて生活しています。国や地域を問わずますます多くの人々が、心を制御する方法を知りたいと望んでいます。心を強くし、プラス思考を取り入れ、心を安定させ純粋にし

たいと考えています。心がそのようになれば、その結果心の平安を得ることになります。

ですから世界中で、瞑想への関心が高まっています。瞑想に関する CD や本が販売され、瞑想を教えるインストラクターやグループが盛んに活動しています。ここでまず理解しておかねばならないことは、心のコントロールができないと平安も得られないということです。平安とは肉体ではなく心に関係しているので、心の制御と平安には密接な関係があり、ほぼ同一のことであるとも言えます。瞑想は心をコントロールする最も優れた方法ですが、瞑想のテクニックについてお話しする前に、心や態度と平安の関係について少し考えてみましょう。

問題



心の平安が得られないという状況はマクロレベルの問題となっていますが、ここでお話しするのは個のレベルで安らぎを得るにはどうすればいいかということです。心が穏やかでない原因は様々ですが、まず自分という原因があります。自分の体、自分の心、自分の今ある願い、将来の願いなど、自分に根ざす問題です。

次に、人間関係に起因する問題があります。これは住者だけの問題ではありません。僧院など霊的な兄弟姉妹の共同体でも起こりうるものです。集団で生活していれば、人間関係の問題が時折生じるのは当然のことです。

また、仕事が原因の問題もあります。仕事では、単純な問題から危機的な状況まで常に逆流が存在し、苦闘が強いられます。

これら三つが心の平安を得られない主な原因であり、これに加えて現代生活のめまぐるしさとそこに氾濫する世俗の楽しみが挙げられます。気の向くままにパソコンなどの電子機器を利用していると心がどんどん落ち着かなくなっていくます。趣味や気晴らしに興じても問題が解決するわけではなく、結果的に心の病気にかかる人が非常に増えました。

真の性質

家庭生活、社会生活、さらには国際社会全体がすべて、これらの問題に影響を受けています。国連憲章に「戦争は人の心の中で生まれるものである」とありますが、平和も人の心の中で生まれるものに違いありません。私たちが個人のレベルでこのことに留意していれば、もっと大きなレベルでも変化が生まれるはずですが。

自分は心ではない、肉体ではない、小さな自我、未熟な自我（シュリー・ラーマクリシュナはこう言われました）ではない、私は成熟

した自我、真我である、有限ではなく無限である、一時的な存在ではなく永遠である、そのように確信できたら、心や肉体にまつわる恐れや不安はなくなるでしょう。病気の恐怖、老いの恐怖、死の恐怖、自己顕示欲や執着など、恐れや不安はすべて「私は肉体である」という考えが中心にあります。自分は肉体ではなく「アートマン」、他者も皆「アートマン」と確信できたら、私たちの抱える問題の大部分は消え去り、平安を得ることができるのです。これについては、バガヴァッド・ギーターに美しい記述があります。

ドイツの著名な哲学者であるアルトゥル・ショーペンハウアーは、毒蛇のいる家に住むことさえ恐くない、と言ったとされています。なぜでしょう。彼はこう言ったそうです。「たとえへビにかまれたとしても何が死ぬというのだ？ 肉体は死ぬが、私は肉体ではない。私はアートマンだ。」

自我

夫婦や兄弟、友人間の人間関係に生じる問題は、分析してみるとその原因が自我（エゴ）にあることが分かります。夫は、息子は将来に備えてこれこれを勉強した方がいいと考えますが、妻は、そんなことはない、息子のことは自分の方が分かっていると反対し、言い争いが始まります。ここで問題になっているのは「私」が何を感じているか、「私」がどう思うか、です。子供がどう思うかは、父親にとっても母親にとっても二の次なのです。

僧院では、僧が皆で集まって物事を決めることがあります。もちろん僧は誰でも、神の仕事はどうしたら最もよく為すことができるかを考えていますが、それぞれの考え方があります。ある僧はこうするのが最もよいと考え、ある僧は、いや、そうではなくてこうした方がいいと考えます。

ここでもやはり自我の問題が生じるのです。私には私の観点しか分からず、私の意見のことばかりを考え、たとえ人の考えが皆にプラスになることであつたとしても耳を貸そうとすらしないのです。人の意見など聞きたくないのです。今こうして皆さんとここに集まっていますが、誰もが自分の意見を捨てたいとは思っていないでしょう。だから皆で何かを決めるのは難しいのです。仕事そのものは自分が言うことほど大切ではないのです。

この自我の中心にあるものは何でしょう。それは、この有限の肉体、心、知性です。ですから、それを超越できれば、自分は自我ではない、超自我であるということを知れば、同じ神様が自分の中に住んでいるのだということを知れば、そして他者の中にも神を見ることができれば、私たちは未熟な自我を成熟させることができます。他者の神性や超自我を重視することで、未熟な自我を超越します。こうすれば、人間関係における自我の問題はなくなり、他者とのよりよい理解、よりよい関係を築くことができます。

傍観者

先ほどお話ししたとおり、仕事に関する問題は、厳しい状況の中で常に逆流にさらされることで強いストレスや緊張を抱えることにあります。こういう場合、傍観者の態度をとることが必要です。傍観者は自分の周りの出来事に関わらず、第三者として目撃しているだけです。このような傍観者の態度を取れるようになれば、心の半分を使って自分が為すべき仕事をやり、心の残りの半分で出来事を観察するのです。楽しむのです。心の半分がどのように反応するか観察するのです。この、傍観者の態度を身につければ、心は落ち着き穏やかになることができます。

私の経験をお話ししましょう。日本に赴任する前、私は大学の学長として大変忙しい毎日を送っていました。が、十分に瞑想をすると、心の穏やかさを保つことができました。心の半分でその穏やかさを保ち、残りの半分で責務を果たしていました。自分のすべてが仕事に没頭してしまうと、このような傍観者の態度を失ってしまいます。皆さんもお気づきのことと思いますが、私たちの中には常にもう一人の自分という傍観者がいます。この事実を時折忘れてしまうこともありますが、自分のしたことや言ったことを後から思い出すことができるのはこの「傍観者」がいるからです。しかし、この傍観者の態度を意識的にとることを皆さんにお勧めしたいのです。

傍観者の態度を養う

このような傍観者の態度を、自分や他者や仕事に対して持つにはどうすればいいのでしょ

うか。本を読んだり CD や講話を聞いたりしても身につくわけではありません。意識し集中して、自分の心がこの態度をとるようにするのは、そのためにはまず頭で理解する必要があります。これが正しい真の態度であると、論理的、理性的に確信する必要があります。これは「ダーラナー (dhāranā)」と呼ばれる、瞑想の集中法の最初のステップです。

ヴェーダーンタでは三つのステップがあるとされ、それぞれシュラヴァナ (shravana)、マナナ (manana)、ニディディヤーサナ (nididhyasana) と呼ばれています。シュラヴァナとは第一ステップで、聞くことと読むことを言います。マナナとは次のステップで、深く考えることです。そして、次のステップでは永遠の真理に集中しなければなりません。本を読んで理解できても、これは集中ではなく、正しい態度を養うことにもならないのです。瞑想は、このような態度を養い集中する手助けとなり、教え導き鍛錬してくれるのです。



瞑想と言うと一般に、目を閉じて背筋を伸ばして座り霊的なことに集中するというイメージです。それでおしまい。これは表面的な理解に過ぎません。瞑想と呼ぶものの中で私た

ちがやっていることと言えば、居眠りをするか明日の予定について考えるかです。つまり世俗的なことに集中しているだけなのです。瞑想とは、もっと次元の高いものに考えを集中することであり、仕事の予定を考えるものではありません。自分の真の性質について、神について、抽象的なことについて、自分を引き上げてくれるものについて集中することです。瞑想の本質は、崇高で霊的なことへの集中です。これが瞑想です。

(第2部は5月号に収録)

日本の地震災害の報告と救済基金について

序文

東北地方太平洋沖地震の発生時、スワミー・メダサーナンダはマニラを訪問中でした。数日後日本に戻ると、地震と津波による被害がかつてない規模であり、被災者は極めて厳しい状況に置かれていることが分かりました。日本ヴェーダーンタ協会の逗子本部では、被災地の自治体に救援物資を提供するために、信者の皆様や様々な方面に協力を呼びかけました。こうして集まった物資を、逗子市の救援物資受付所に二回届けました。(注 本文書の完成後、もう一度受付所に救援物資を提供し、さらに4月26日に福島県いわき市の避難所にも直接届けに参りました。)詳細は、協会のウェブサイト (www.vedanta.jp) でご覧いただけます。

日本ヴェーダーンタ協会では、世界中のラーマクリシュナ・ミッションのセンターや友人の皆様からお見舞いのEメールや電話を絶え

ずいただいております、何か力になれることはないか、救援活動の支援資金はどこに送ればいいのか、という問い合わせを受けております。皆様からのこうしたお心遣いに応えるため、この度救援基金を設立し、ミッション本部や世界中の支部、信者とご友人の皆様に向けて以下のようなメッセージを発信いたしました。

2011年3月28日(月)

親愛なる皆様へ

皆様もご存じのとおり、日本の東北地方沿岸部に3月11日、マグニチュード9.0の巨大地震が発生し、数分後に壊滅的な津波が沿岸部を襲いました。東北地方沿岸部の状況は映像ニュースが最もわかりやすいでしょう。この二重の災害で人命と家・財産を失われた多くのご遺族の方々の途方にくれる苦しみは今も延々と続いています。最も壊滅的な被害を受けた地域は近づくこともできず、被災地は、北は宮古市、岩手県から南は茨城県北茨城市にまで広範囲に渡っています。さらに悪いことに、この中間に位置する福島県の原子力発電所が破壊され、大気や飲み水、野菜などの広範囲に渡る放射能の放出を防ぐためにメルトダウンを食い止めようと今も必死の努力が続いています。

東京や横浜などの人口が集中する首都圏での日常生活も影響を受けています。毎日、何万人もの日本人の通勤に使われる電車や地下鉄などの交通機関が地震直後は24時間停止して大勢の人々が帰宅できなくなりました。今も続く大きな地震や余震、不安定な電力供

給で郊外の住民は通勤できないままです。深刻なガソリン不足のなか、極度に必要としている東北地方への供給が優先され、不足に拍車をかけています。東京の店舗からは乳製品とパンと米が消え、首都圏及び周辺地域では、節電のために計画停電が行われています。日本は比較的、地震や津波には慣れているとはいえ、今回の災害は想像を絶した未曾有の規模で国全体が衝撃を受けています。

ラーマクリシュナ・ミッションは自然災害の被災者に対して大規模な救済活動を行ってきた長い歴史があります。その日本支部を担う私たち僧と日本ヴェーダーンタ協会の信者は、国家的危機に瀕している現在、何か私たちが被災者にできることはないかと思案しています。そのひとつとして、信者や友人の輪を通じて日本国内及び海外の共感する人々からの義援金を集めることも計画しています。実際、地震が起きてから、私たちはインドや多くの国々から数多くの電話やメールを受けています。同情やお見舞いの言葉、被災者への祈りだけではなく、この惨状を助けるために何をすべきでしょうかとの問い合わせもあります。

このような状況の中、私たちは救済基金への義援金活動に皆様のご理解とご協力をお願いしたいと思います。可能であれば皆様それぞれが積極的に義援金活動を実施していただき、集まった義援金をラーマクリシュナ・ミッション日本支部にご送金下さいますようお願い申し上げます。私たちは皆さまに代わって、被災者への義援金を地方自治体やできる

だけ多くの被災地の市役所に送ります。もちろんこれらの支出については記録を残します。義援金の送付先の詳細は以下のとおりです。

日本ヴェーダーンタ協会の口座

取扱銀行： みずほ銀行鎌倉支店

銀行住所： 〒248-0012 神奈川県鎌倉市御成町 11-35 TEL: 0467-23-1155

SWIFT コード： mhbkjpt

口座名： 宗教法人日本ヴェーダーンタ協会

口座番号： 支店番号 760 口座番号 1114571

金額に関わらず皆様のご協力で集められた義援金は、皆様とご友人からの親切な慈悲深い心の表れとしてこの国の被災者に大いに感謝されることでしょう。

なお、実際に義援金を送金される場合は、必ず金額と送金者名と銀行情報、送金日をメールにて私たちにお知らせ下さい。この義援金に関する連絡はすべて下記のアドレス宛てにお願いいたします。

義援金専用アドレス： jprelief@gmail.com

慈悲の敬意と祈りを込めて
スワームー・メダサーナンダ

高校生が逗子の協会本部を訪問



2011年2月7日、横浜の高校生8名が引率の先生2名と共に逗子の協会本部を訪問しました。協会では毎月、横浜・寿町でホームレスの方々に奉仕するナーラーヤン活動を行っていますが、スワームー・メダサーナンダがこの活動で奉仕中に、学校の課外活動の一環としてボランティアに来ていた先生と高校生数名と知り合いました。先生はスワームーとの会話からインド文化に興味を持たれ、それがきっかけで今回の訪問に至りました。

協会の2階の集会室にホワイトボードを置いて教室のようにし、スワームーがインド文化について分かりやすく興味深い話をしました。また、インド文化やインドと日本の関係についてのさまざまな質問に、スワームー自らの体験も交えて答えました。終わりに、協会発行の本『スワームー・ヴィヴェーカーナンダと日本』を全員に贈呈しました。この本にはスワームー・ヴィヴェーカーナンダと横浜の、あまり知られていない関係についても書かれており、横浜の高校に通う皆さんにとっては特に興味深いことでしょう。その後、協会の近所にお住まいの信者ソフィヤさんが準備してくださった、手作りのおいしいインド料理

を皆でいただきました。来訪された先生、生徒さんにとって、知識を広げる楽しい一日となったことと思います。



忘れられない物語

禅僧と盗人

ある山の麓の小屋に年老いた一人の禅僧が住んでいた。ある晩、僧が瞑想をしていると、見知らぬ男が小屋に押し入り、剣を振り回しながら金をよこせと僧を脅した。

僧は瞑想をしたまま、男に言った。「その棚の上にある椀の中に、私の全財産が入っている。欲しいだけ持って行きなさい。但し五銭残しなさい、来週税を払うから。」

盗人は椀からお金を取ると、五銭を椀に戻した。そして、棚に高価な壺があるのに気付くと、それも奪うことにした。

「気を付けて持って行きなさい、その壺は割れやすいよ。」僧は言った。

盗人は小屋の中をもう一度見回すと、出て行くとした。

「お礼の言葉がないな。」僧は言った。盗人は礼を言うと出て行った。翌日、あちこちの家に泥棒が入ったことが分かり、村中が大騒ぎだった。村人の一人が、禅僧の小屋の棚から壺がなくなっていることに気付き、お坊さんも泥棒に入られたのですか、と尋ねた。

「いやいや、あの壺は知らない男にあげたのですよ。お金と一緒にね。私に礼を言って出て行きましたよ。いい奴だったが、少々そっかしいようじゃ。剣を忘れていったよ。」

(Anthony de Mello 神父)

今月の思想

瞑想すること、自分は人類に仕えるためにこの星に遣わされたのだと考えること。これが、現代社会を生き抜く私の方法です。忘れそうになる自分に、贅沢をしすぎず質素な生活をしなさいと言ひ聞かさねばなりません。これは物質世界で絶えず繰り返される闘争です。

(サンドラ・シスネロス)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: info@vedanta.jp